

令和 5 (2023) 年度実績と 主な取組について

令和 6 年 7 月 4 日 平塚市病院運営審議会
平塚市民病院



令和5年度の取組

はじめに

令和5年度は病院の最重点目標として

「新入院患者数」（令和5年度目標値10,300人）

を達成するために取り組みました。

令和5年度に取り組んだ主な内容

- ①高度医療機器の活用
- ②集中治療室機能の強化
- ③電子カルテ等のシステム更新
- ④市民・患者への情報発信の強化
- ⑤地域医療機関との連携強化
- ⑥救急隊との連携強化
- ⑦職員育成の強化

①高度医療機器の活用

手術用ロボット「hinotori」の実績

- 令和5年4月～
ロボット前立腺悪性腫瘍手術の診療報酬算定開始
- 令和5年9月～
ロボット仙骨膕固定術の診療報酬算定開始
- 令和5年11月～
ロボット直腸切除・切断術の診療報酬算定開始
ロボット食道悪性腫瘍手術の診療報酬算定開始

【手術実績（令和4年度～令和5年度）91件】

泌尿器科	前立腺全摘除術	38件
	仙骨膕固定術	45件
	腎摘除術	1件
消化器外科	直腸切除術	4件
	食道悪性腫瘍手術	3件



②集中治療室機能の強化

集中治療室機能の強化

ハイケアユニット 入院医療管理料	10床	→	特定集中治療室管理料	8床
			ハイケアユニット入院医療管理料	4床
合計	10床	→		12床

※令和6年4月から集中治療専門医が着任

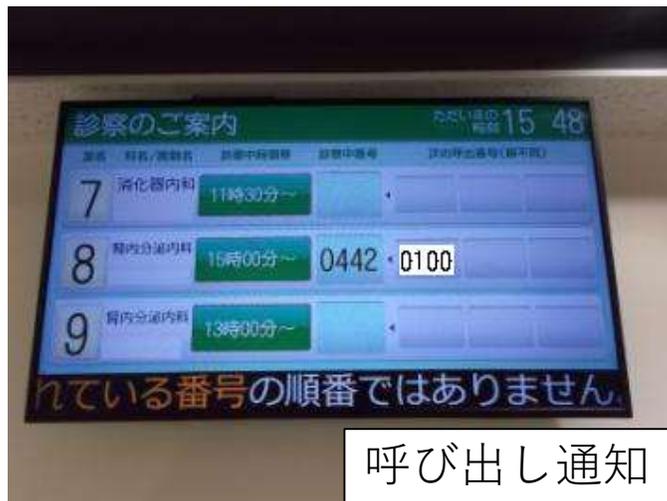


外来診察のスマホ通知機能の導入

5月～

外来診察で順番が近くなると

患者さんのスマホに通知



患者さんの「診察待ち時間」有効活用による患者サービスの向上

デジタル活用による業務効率化

5月～

●電子カルテ用スマホの導入

●スポットチェックモニタの導入

⇒手入力だった体温、血圧などを電子カルテに自動送信



電子カルテ用スマホ



スポットチェックモニタ

業務効率化による業務負荷軽減、働き方改革

④市民・患者への情報発信の強化

看護フェスティバルの開催（4年ぶり）

5月19日

院内で看護フェスティバル開催

※栄養指導、乳がんチェック、
骨折予防体操などを実施



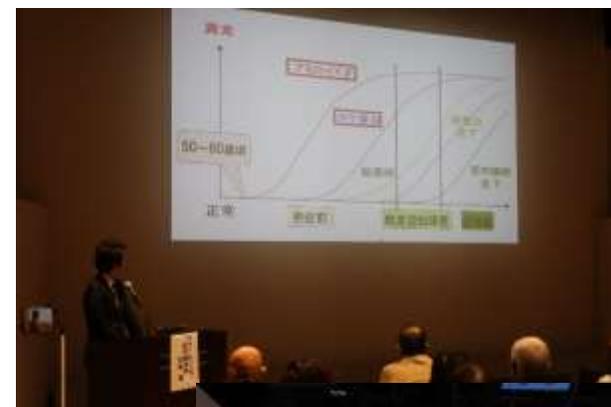
市民、地域住民とのコミュニケーション機会の確保

④市民・患者への情報発信の強化

市民健康講座の開催

「ひらしん平塚文化芸術ホール」で市民健康講座を開催
令和5年度は3回開催（250人参加）

開催日	内容	参加者数
令和5年11月23日(土)	女性疾患	30人
令和6年1月13日(土)	脳疾患	101人
令和6年3月9日(土)	循環器疾患	119人



市民、地域住民とのコミュニケーション機会の確保

ホットラインの充実

7月3日～

●当日紹介ホットラインの再開

※既存の循環器ホットライン、脳卒中ホットラインに加え
更なるホットラインの充実

地域医療機関との連携強化

⑤地域医療機関との連携強化

平塚市民病院登録医の会を開催（4年ぶり）

9月20日

第4回 平塚市民病院登録医の会を開催

※令和元年度以来4年ぶり



地域医療機関とのコミュニケーション機会の確保

救急事例検討会の開催

10月と3月に救急事例検討会を開催

- 救急隊員を対象に院内での取組などを紹介
- 平塚、大磯、二宮、小田原、秦野、厚木、箱根消防などから138人参加



救急隊とのコミュニケーション機会の確保

看護師特定行為研修機関の指定

看護師特定行為研修機関の指定を受けたことで、院内で特定看護師の育成が可能となりました。

- 令和5年10月から救急領域パッケージ、抹消留置型中心静脈注射用カテーテルの研修を行っています。

院内での職員育成の強化

まとめ

今後

“選ばれる病院” となることで

新入院患者の更なる受入れに努めます。

令和5年度実績

最初に

令和5年度は、引き続き

「新入院患者の受入れ」(R5年度目標:10,300人)

と

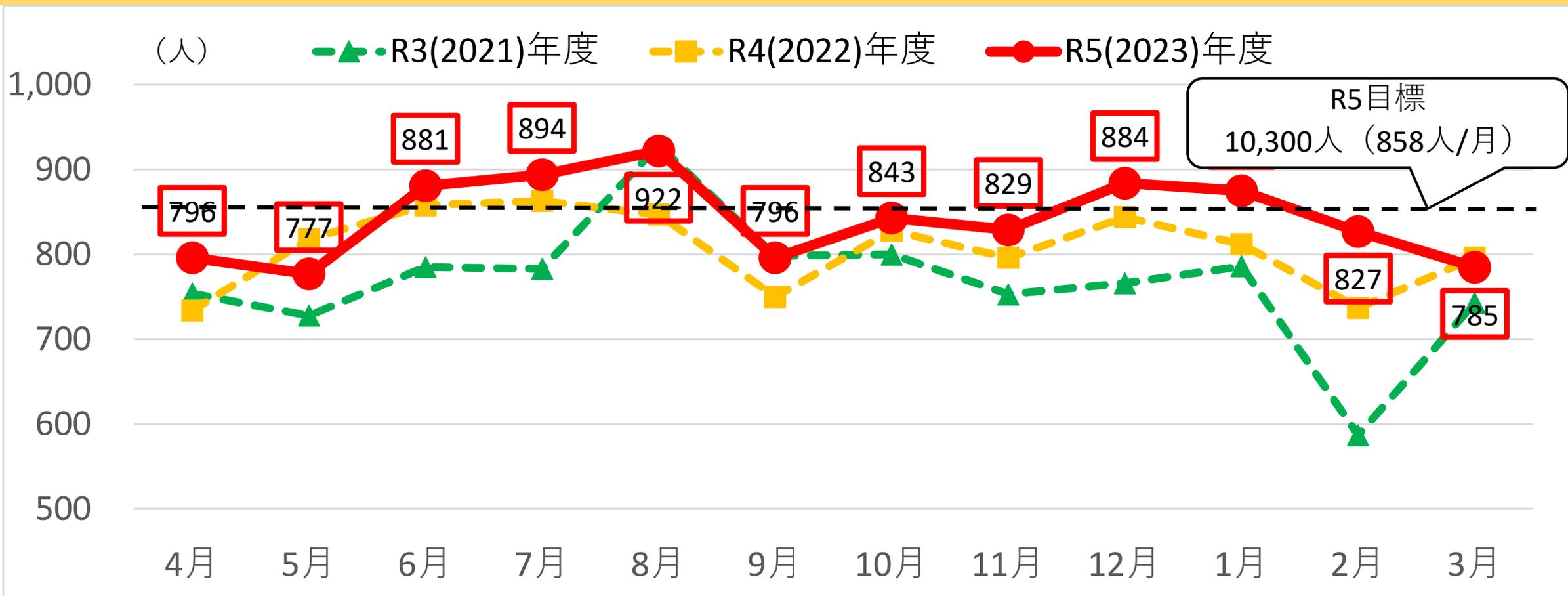
「DPC入院期間Ⅱを意識した在院日数管理」

を重視しました。

主な臨床指標の前年度比較

	令和4年度	令和5年度	差
新入院患者数	9,683人	10,109人	+426人 (+4.4%)
1日平均入院延患者数	306.2人	299.7人	▲6.5人 (▲2.1%)
1日平均外来延患者数	757.6人	768.3人	+10.7人 (+1.4%)
病床利用率(稼働病床ベース)	78.9%	81.0%	+2.1ポイント
手術件数	4,234件	4,140件	▲94件 (▲2.2%)
救急搬送件数	10,703件	10,322件	▲381件 (▲3.6%)
救急搬送入院患者数	3,259件	3,241件	▲18件 (▲0.6%)
紹介率	82.2%	86.5%	+4.3ポイント
逆紹介率	95.7%	89.9%	▲5.8ポイント

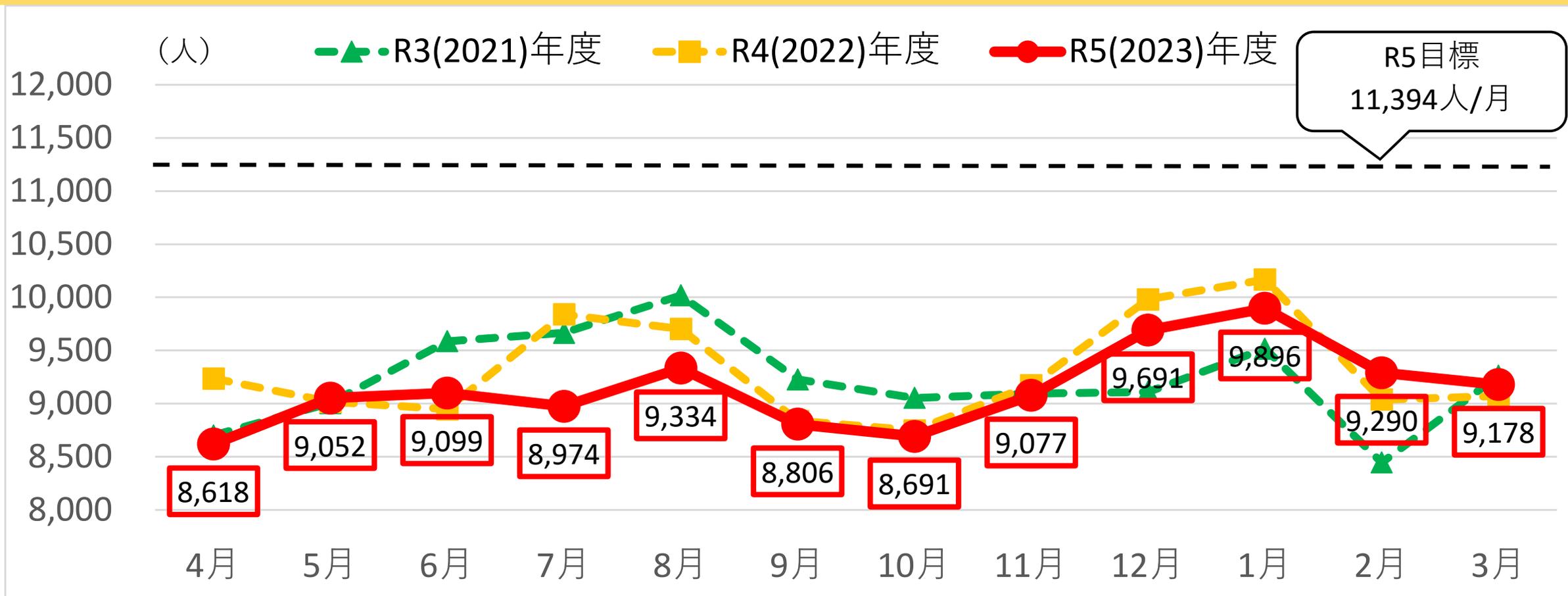
新入院患者数の推移



令和5年度は、令和4年度よりも新入院患者数が増加したが、目標未達成の月がある。3月に特に新入院患者数が減った。

令和5年度実績（入院）

入院延患者数の推移

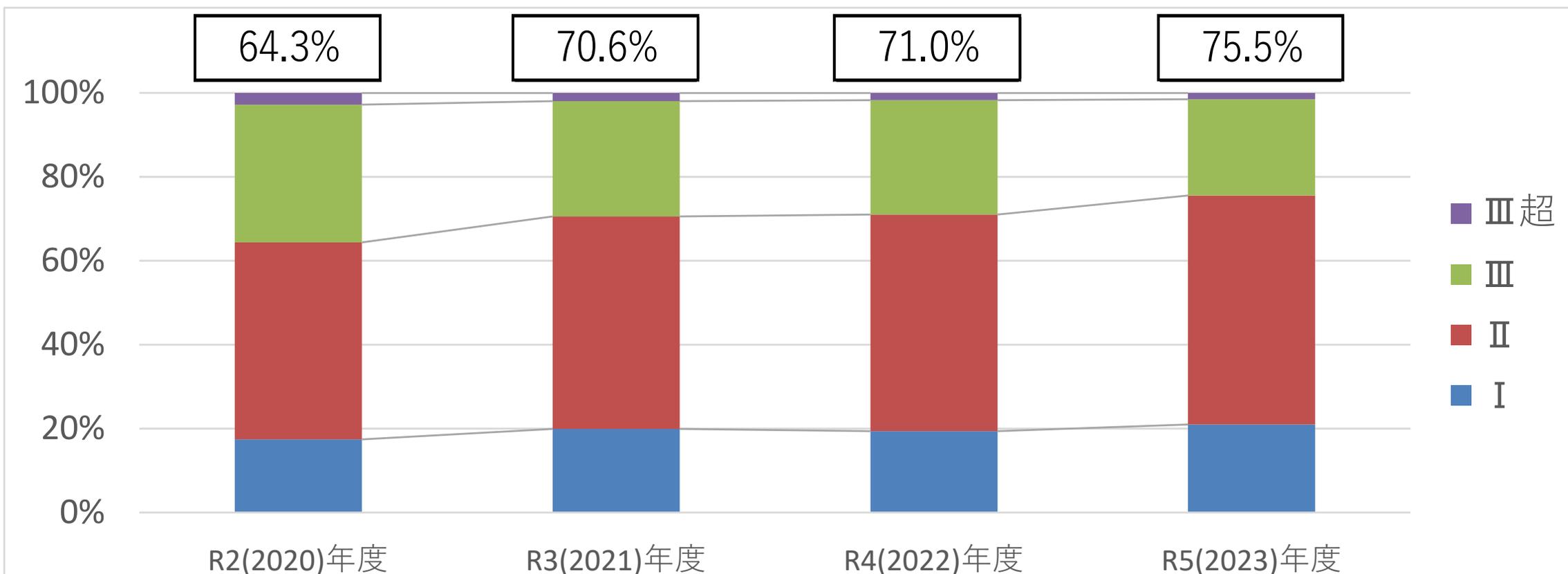


令和5年度の延べ患者数は、令和4年度より2,049人減少

D P C入院期間Ⅱ以内での退院率

D P C制度は、入院診療報酬請求の制度で、病名や手術の有無等により、分類わけされ、在院日数に応じて1日当たりの点数が定められている。入院期間Ⅱまでであれば、その治療に対する平均的な収入が得られる。

D P C入院期間Ⅱ以内での退院率が増加



診療科別新入院患者数比較

R4-R5患者増減数が大きい診療科

	令和4年度	令和5年度	差	備考
病院全体	9,683人	10,109人	+426人 (+4.4%)	
消化器内科	1,218人	1,437人	+219人 (+18.0%)	
呼吸器内科	159人	258人	+99人 (+62.3%)	常勤医師1人増
小児科	603人	694人	+91人 (+15.1%)	
内科	1,914人	1,886人	▲28人 (▲1.5%)	コロナ患者等の減
消化器外科	809人	743人	▲66人 (▲8.2%)	手術件数の減
産婦人科	865人	764人	▲101人 (▲11.7%)	常勤医師3人減

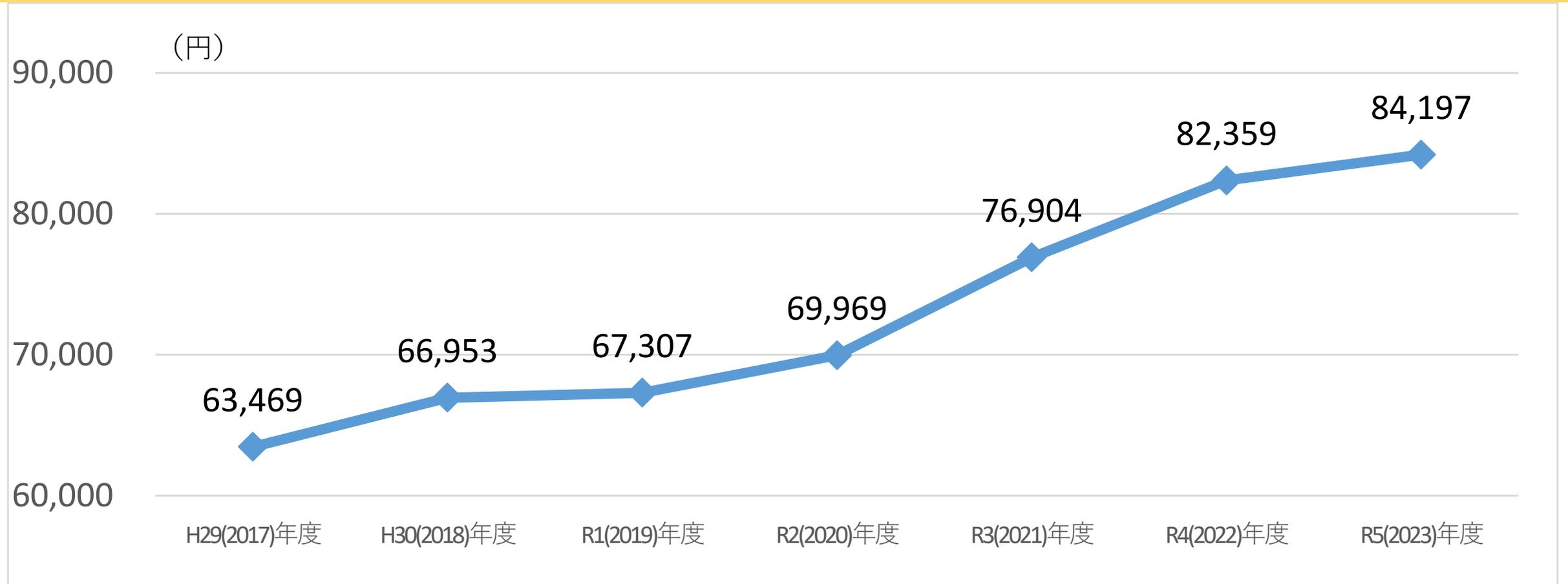
疾患別入院実患者数比較

R4-R5患者増減数が大きい疾患

	令和4年度	令和5年度	差
乳房の悪性腫瘍	141人	224人	+83人 (+58.9%)
肺炎等	143人	212人	+69人 (+48.3%)
敗血症	79人	141人	+62人 (+78.5%)
股関節・大腿近位の骨折	333人	266人	▲67人 (▲20.1%)
誤嚥性肺炎	353人	269人	▲84人 (▲23.8%)
その他の感染症	296人	181人	▲115人 (▲38.9%)

令和5年度実績（入院）

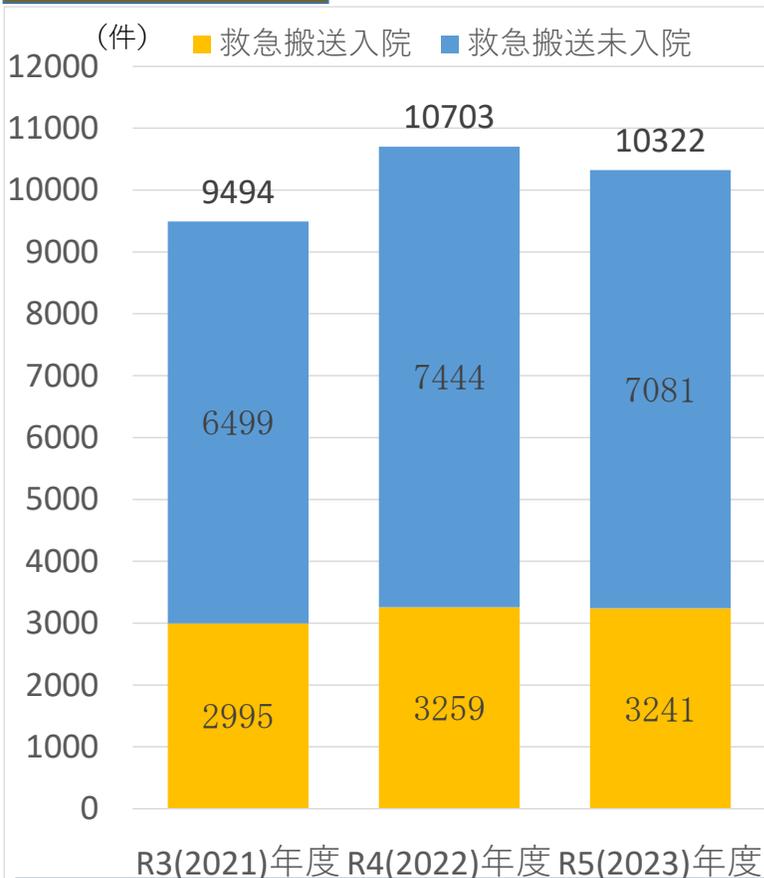
入院診療単価の推移



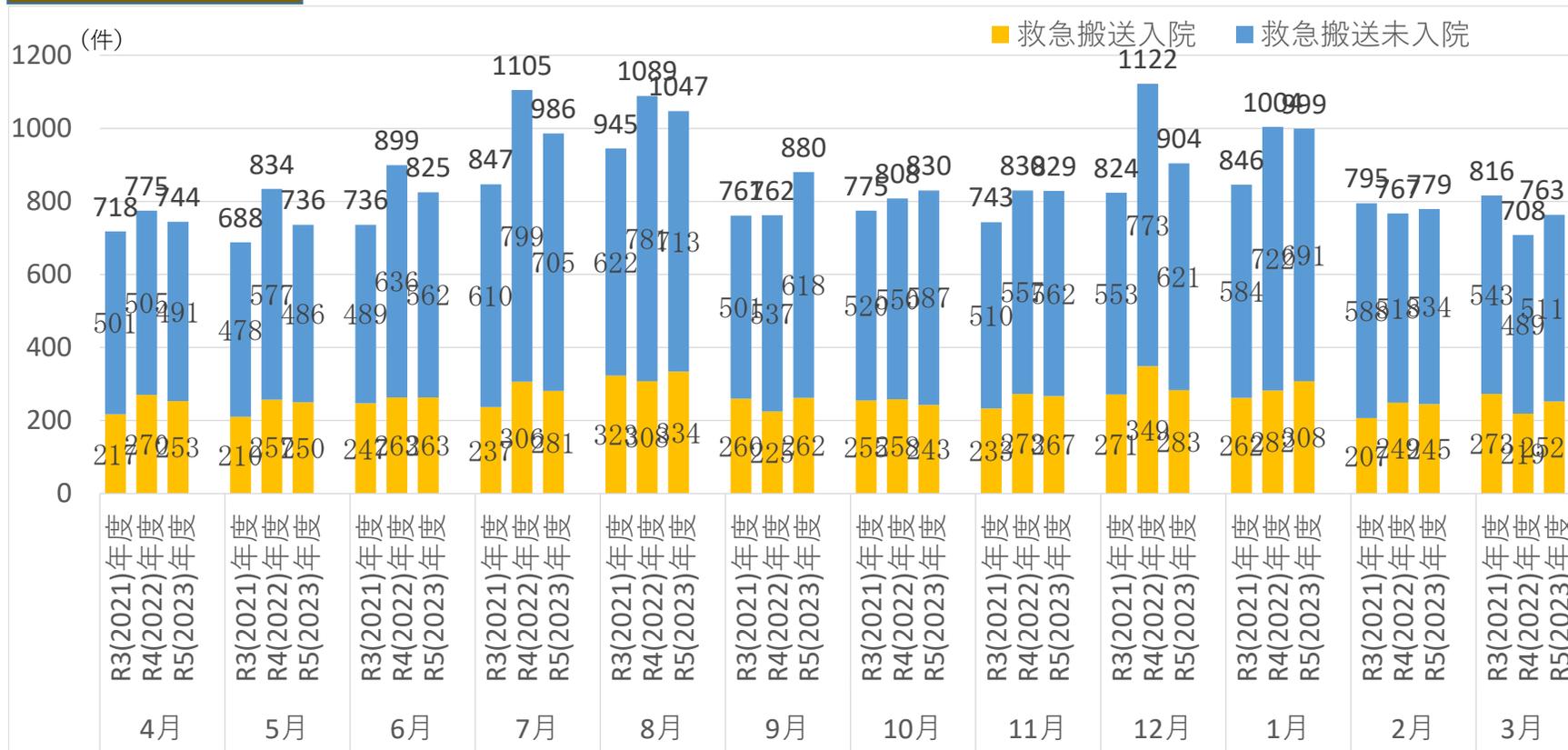
入院診療単価は増加、注射料が増加

救急搬送受入の推移

年間実績



月別実績



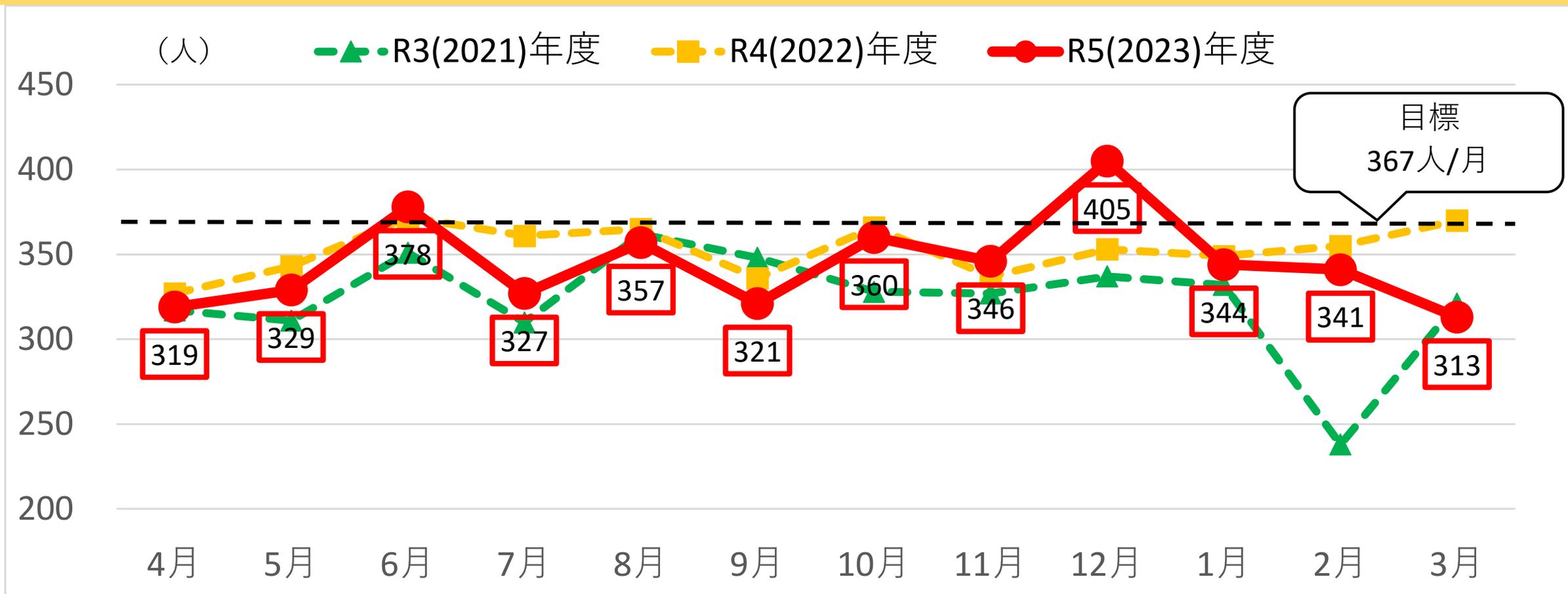
救急搬送入院率

30.4% (R4) ⇒ 31.4% (R5)

救急搬送件数、救急搬送入院患者数が減少
救急搬送入院率は増加

令和5年度実績（入院）

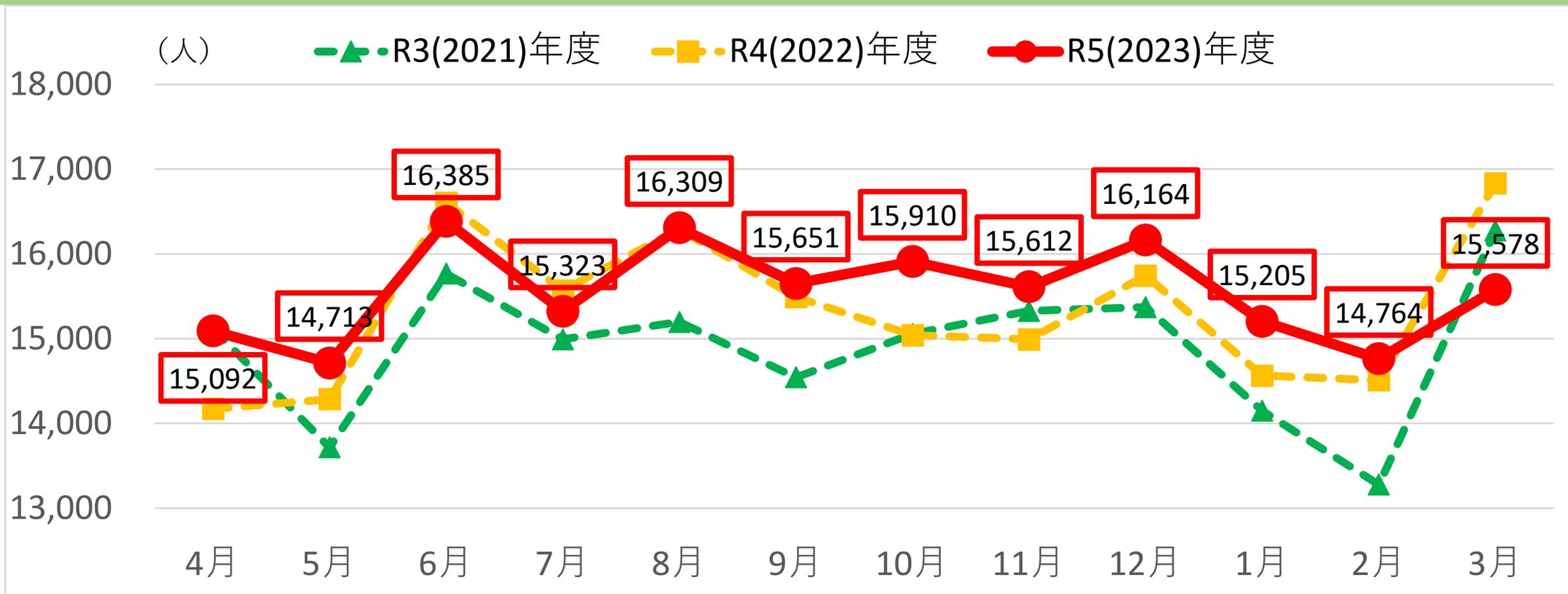
手術件数の推移



令和5年度は、令和4年度より94件減少

令和5年度実績（外来）

外来延患者数の推移



外来延べ患者数は2,604人増加

令和5年度実績（外来）

診療科別外来延患者数比較

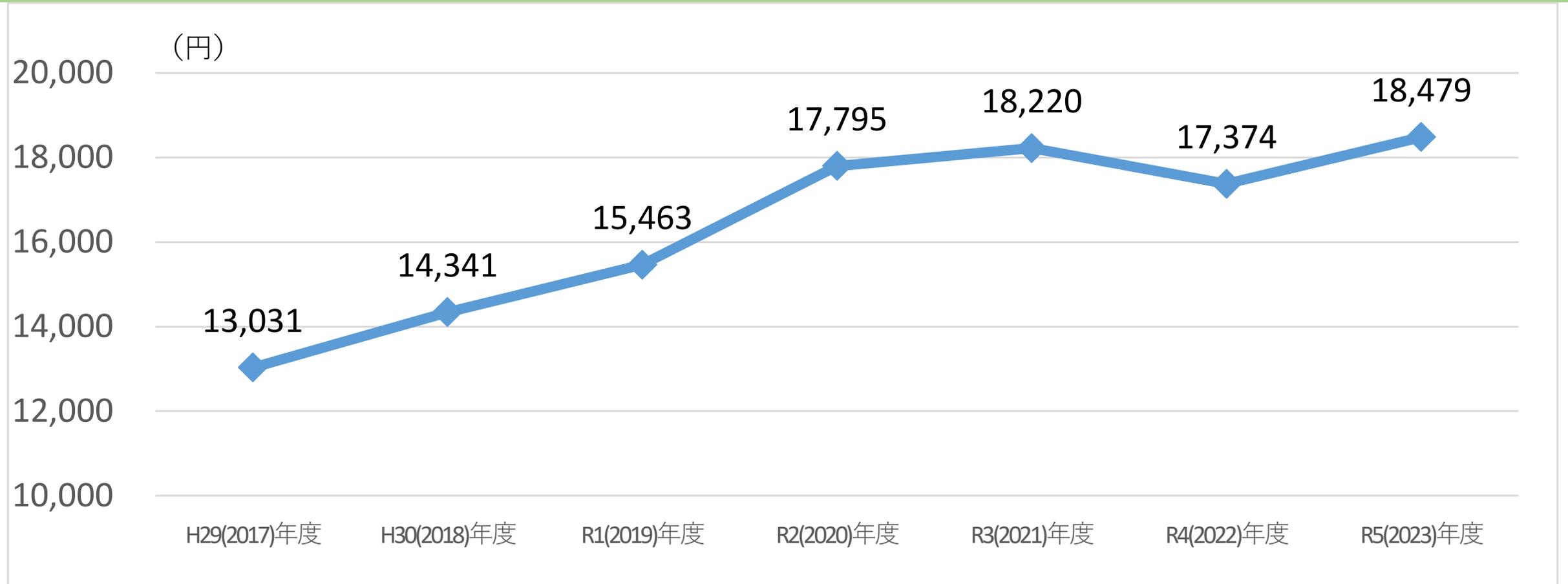
R4-R5患者増減数が大きい診療科

	令和4年度	令和5年度	差	備考
病院全体	184,102人	186,706人	+ 2,604人 (+1.4%)	
形成外科	3,481人	4,629人	+ 1,148人 (+33.0%)	常勤医師2人増
呼吸器内科	6,107人	7,200人	+ 1,093人 (+17.9%)	常勤医師1人増
脳神経内科	7,498人	8,410人	+ 912人 (+12.2%)	
泌尿器科	10,606人	10,054人	▲552人 (▲5.2%)	常勤医師1人減
産婦人科	14,783人	13,963人	▲820人 (▲5.5%)	常勤医師3人減
循環器内科	10,652人	9,825人	▲827人 (▲7.8%)	

常勤医師の増減の影響が大きい。

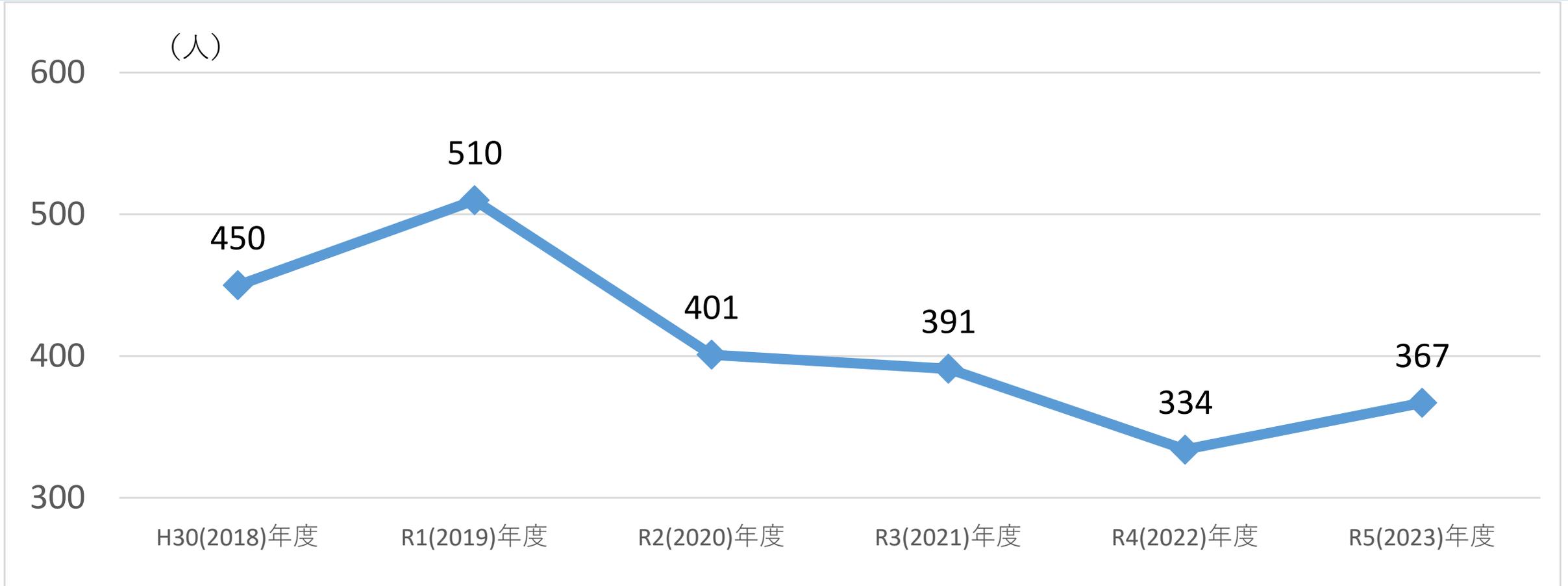
令和5年度実績（外来）

外来診療単価の推移



外来診療単価が増加、注射料の増加が大きい

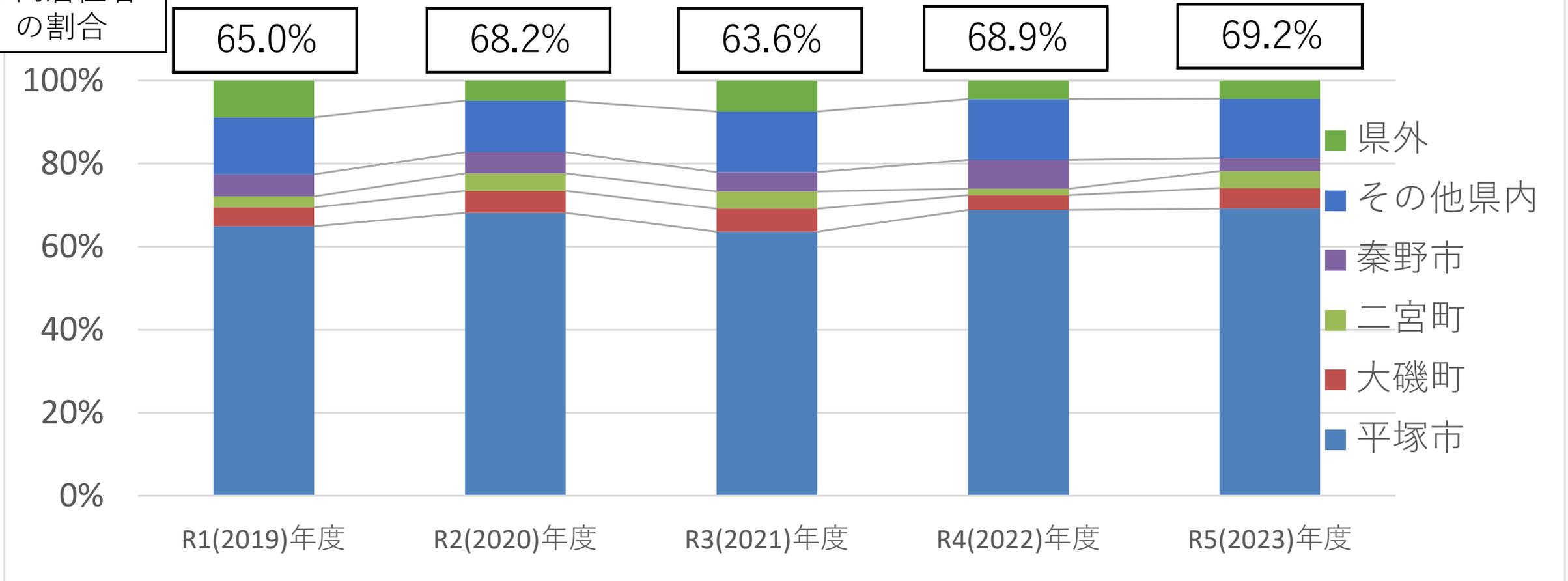
分娩件数（子どもの数）の推移



平塚市や近隣自治体の出生数の増加により分娩数が増加
前年度比+33件

居住地別出生数（母体数）の推移

市内居住者の割合



市内居住者の割合がやや増加

主な経営指標の前年度比較

	令和4年度	令和5年度	差
医業収益	126億4,100万円	129億2,300万円	+ 2億8,200万円 (+ 2.2%)
入院収益	92億400万円	92億3,700万円	+ 3,300万円 (+ 0.4%)
外来収益	31億9,900万円	34億5,000万円	+ 2億5,200万円 (+ 7.9%)
医業費用	142億8,700万円	149億4,100万円	+ 6億5,300万円 (+ 4.6%)
給与費	79億5,100万円	82億9,600万円	+ 3億4,500万円 (+ 4.3%)
材料費	29億1,900万円	31億6,100万円	+ 2億4,200万円 (+ 8.3%)
医業収支比率	88.5%	86.5%	▲2.0ポイント
経常収支比率	105.7%	96.8%	▲8.9ポイント

**医業費用の増加により、医業収支比率は悪化
新型コロナウイルス関連補助金の減少で経常収支比率は悪化**

まとめ

- 新入院患者がコロナ前と同水準となりましたが、今後も入院が必要な患者に積極的に対応します。
- 高度医療、急性期医療、政策的医療を担う病院として、特に紹介患者や救急受診患者の増加を図ります。

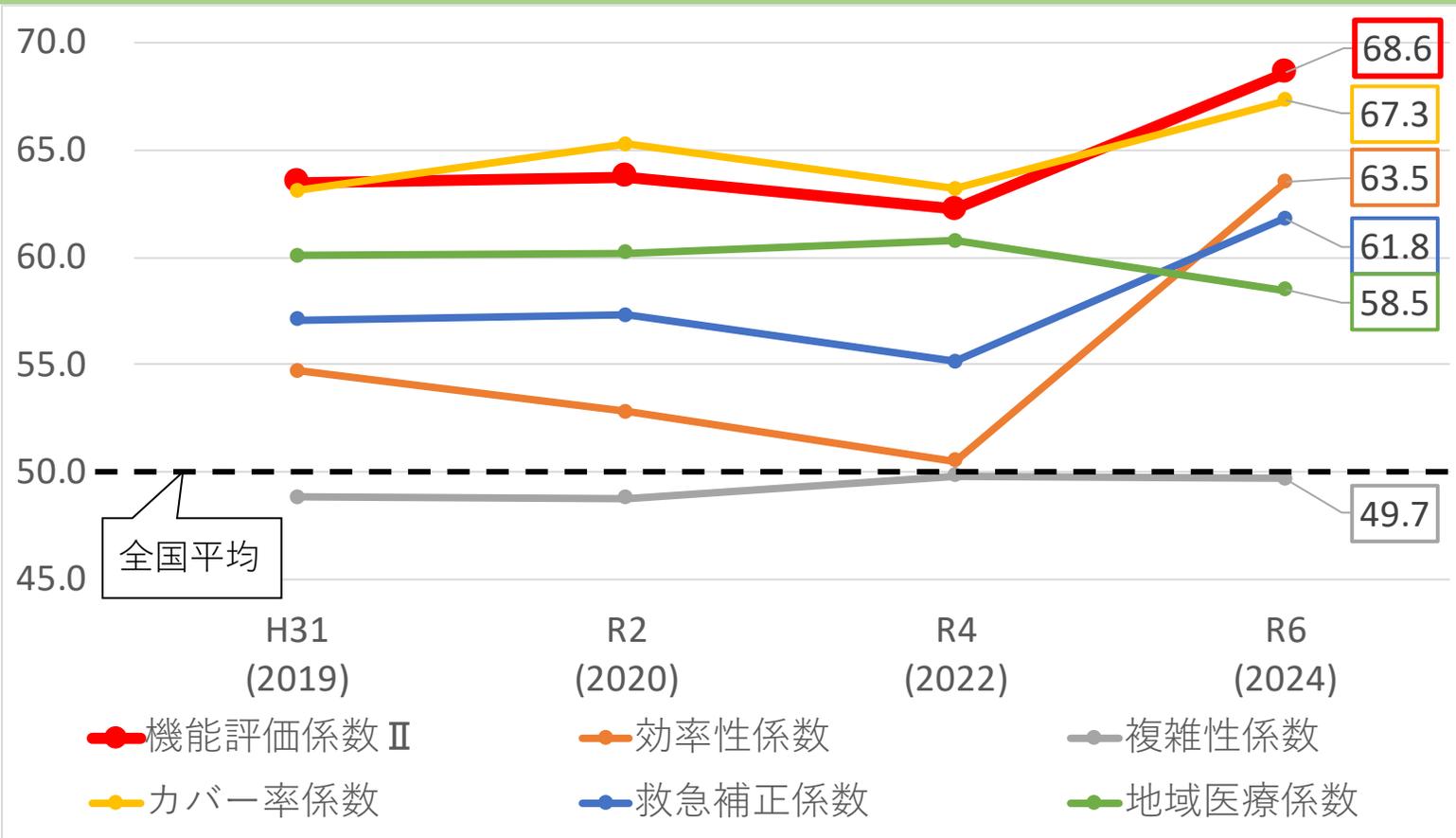
令和6年度診療報酬改定による評価

当院の令和6年度機能評価係数Ⅱについて

	令和4年度係数	令和6年度係数	差
機能評価係数Ⅱ	0.1243	0.1535	+ 0.0292
保険診療係数	0.01764	廃止	▲0.01764
効率性係数	0.01648	0.03756	+ 0.02108
複雑性係数	0.01891	0.02280	+0.00389
カバー率係数	0.02343	0.03215	+0.00872
救急医療係数	0.02193	救急補正係数に変更 0.0340	+0.01207
地域医療係数	0.02589	0.02694	+0.00105

全ての係数が改善

機能評価係数Ⅱ別の偏差値推移(全国標準病院群比較)



県内の機能評価係数Ⅱ順位 (標準病院群比較)

順位	医療機関名	係数
1	県立がんセンター	0.1311
2	平塚市民病院	0.1195
3	川崎市立川崎病院	0.1181
4	中央林間病院	0.1175
5	小田原市立病院	0.1172

【改善】 ● 機能評価係数Ⅱ合計 ● 効率性係数 ● カバー率係数 ● 救急補正係数
【悪化】 ● 複雑性係数 ● 地域医療係数

D P C 特定病院群の要件

D P C の病院は大学病院群、特定病院群、標準病院群 3 つに分類されており、上位に行くほど高度な医療を担っていると判断されます。

現在、当院は D P C 標準病院群で特定病院群になるには、【実績要件 1】、【実績要件 2】、【実績要件 4】と【実績要件 3】のうち 5 つを満たす必要があります。

要件		R4改定	R6改定	差	R6基準値	判定
【実績要件 1】 診療密度		2,435.49	2,508.22	+72.73	2,537.96	×
【実績要件 2】 医師研修の実施		0.0529	0.0529	0	0.0150	○
【実績要件 3】 医療技術の実施						
試外 案保 連	(3a)手術実施症例1件当たりの外保連手術指数	14.68	15.16	+0.48	13.38	○
	(3b)DPC算定病床当たりの同指数	150.64	163.17	+12.53	129.40	○
	(3c)手術実施症例件数	4,270	4,477	+207	5,593	×
科特 診定 内	(3A)症例割合	0.0162	0.0233	+0.0071	0.0127	○
	(3B)DPC算定病床当たりの症例件数	0.3582	0.4952	+0.137	0.2338	○
	(3C)対象症例件数	149	206	+57	156	○
【実績要件 4】 補正複雑性指数		0.1246	0.0692	▲0.0554	0.0820	×

当院は、全体的に改善しているが、「診療密度」と「補正複雑性指数」が課題